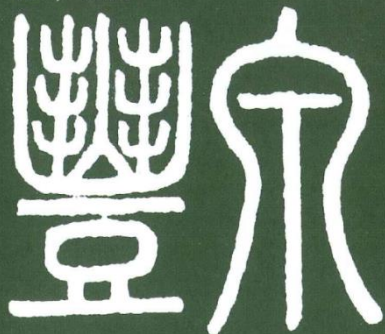


ほうせん



弘前大学附属図書館報  
The Hirosaki University Library bulletin

2024.11

豊泉（ほうせん）とは 本学図書館が「汲めども尽きぬ豊かな知の泉であるように」との思いから、松原邦明名誉教授により名づけられました。（出典：明治9年『仏国学制』（文部省翻訳・出版）附録上巻「学校ニ於テ教フル所ノ学科ノ外ニ、又人智ヲ広ムルノ豊泉アリ」）



## 特集：第10回附属図書館POPコンテスト受賞者発表

- 06 本との出会いを楽しむ〈第33回〉動物行動学者の本棚  
「動物をとおしてヒトを見る」（農学生命科学部准教授 曾我部篤先生）
- 07 トショカンの舞台裏 “医学部分館に生まれた新スペース”の巻
- 08 本を持って出かけよう〈第5回〉～宮沢賢治と花巻市～
- 09 図書館ショートストーリー「栞と嘘の暗号」〈最終回〉
- 10 Library's Half Year
- 11 寄贈図書紹介
- 12 図書館員ちよこっコラム&編集後記

# No. 60

# 第10回弘前大学附属図書館 POPコンテスト受賞者発表

## 大賞

人文社会科学部4年 小森 香好



この度はたくさんのご投票、誠にありがとうございます。この本は、自分の母方言とともだちの方言を比べて楽しめる、手に取りやすい1冊です。私たちの世代は、母方言が違ってても（アクセントやイントネーションの違いを感じるくらいで、）普通にコミュニケーションを取れることが多いと思いますが、詳しく見ると違う部分がたくさんあって凄く面白いんです。この本が、そんな気づきのきっかけになれば嬉しいです。

## 優秀賞

人文社会科学部4年 田中 仁心



疲れているとき、やむなく読書を諦めてしまうことはありませんか。そんなとき、本に添えられたPOPや魅力的な装丁に励まされて、「読書する力」を取り戻すことはありませんか。私もまったく同じ理由でこの本を手に取り、自らの世界を広げることができました。ノーベル文学賞の発表から、韓国文学の魅力が各所で発信されています。その流れのなかで、私のPOPが、みなさんの読書を励ますささやかなひと押しとなれば幸いです。

## サンライズ産業(株)賞

理工学部4年 豊田 駿人



少年の虚ろな自我同一性の視覚化を試みました。本作は、誰よりも「人間」の在り方を問い続け、誰よりも純粋で優しかった少年の生涯が回顧録として綴られており、太宰自身の私小説的側面も色濃く反映されています。幾度も自殺未遂の末、最期は愛人との心中という惨憺な結末を迎えた太宰。弘前で学び育った彼の遺作『人間失格』を、弘前大学の皆様にも、ぜひ手に取っていただき、彼へ思いを馳せながら読んでいただければ幸いです。

今年もたくさんのご応募・ご投票ありがとうございました!シール投票・WEB投票により、こちらの7作品が入賞しました。受賞者の方から、この本を選んだ理由や、応募したきっかけなどについてコメントをいただきました。

## 佳作

### 農学生命科学部4年 後藤 聖華



この度、佳作に選んでいただいたこと、大変光栄に思います。文豪たちの作品というのは、現代にはない独特な雰囲気や言い回しがあるように私は感じていて、好き嫌いがあるかもしれませんが、是非人生で一度は彼らの作品を手にとることをお勧めします。

私が今回選んだ本は、短い話の中に様々な謎、思惑、感情がぎゅっと凝縮されていて、読み応えがあります。気軽に楽しめる上質なミステリーを是非お楽しみください!

### 人文社会科学部2年 天野 晴基



この度はこのような賞をいただけて光栄です。本作品は原田マハさんの「楽園のキャンバス」をもとに作成しました。原作の怪しい雰囲気と謎に包まれた絵画をイメージしてデザインしました。原作ではたくさんの絵画が登場するのでミステリー好きのみならず芸術分野に興味のある人にもぜひ読んでほしい一冊です。このポップコンテストを通じてさらに多くの人に本書を手にとってもらえると幸いです。

### 人文社会科学部4年 内藤 朱里

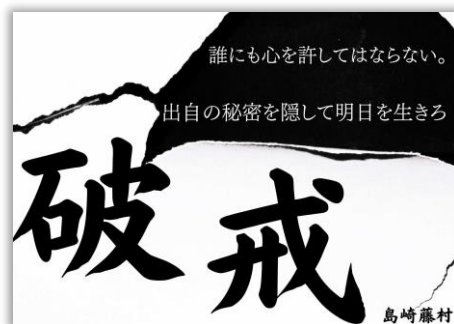


この度は賞をいただけたこと、光栄に思います。今回『水滸伝』を選んだのは、中国古典の持つ堅い印象を和らげたいという理由からです。

魯智深は、和尚のくせに暴力的、しかし弱者に寄り添う義侠心にあふれた性格で、非常に魅力的なキャラクターです。この作品は、そのような個性的な豪傑たちが集う物語です。

またねぶたでもよく題材になるので、一読すれば弘前がさらに楽しめると思います。興味を持ってくれる方がいれば幸いです。

### 教育学部3年 豊島 啓太



このたびは皆さまに投票いただきまして本当にありがとうございます。

この作品は小学5年生時に両親に近所の書店で買ってもらって以来、何回も読み直して島崎藤村の作る世界観を感じていました。私はこの作品から差別や偏見がこの世界に存在することを知りました。このPOPで私がこれまで作品から感じた世界観を表現でき、このような賞をいただけたこと大変うれしく思います。

最後に本当に投票いただきありがとうございました。



羽瀧館長（前列左）  
サンライズ産業株式会社  
小野専務取締役（前列右）  
及び受賞者のみなさん

弘前大学附属図書館では、2015年より毎年、図書館の利用促進や読書推進を目的として POP コンテストを開催しています。

今年もたくさんの応募があり、作品はすべて該当図書と共に図書館本館の2階企画展示コーナーに展示されました。そして、来館者からのシール投票及び専用 Web ページからの Web 投票によって、全7作品の入賞が決定しました。

今回は、鮮やかな色使いで、日本語のしきみをもっと知りたくなるような魅力的な POP で『ワークブック方言で考える日本語学』を紹介した人文社会科学部4年小森香好さんが大賞を受賞しました。優秀賞には、明るく優しい色彩を用いて『82年生まれ、キム・ジョン』を紹介した人文社会科学部4年の田中仁心さんの POP が選ばれました。



また、今回もサンライズ産業株式会社様にご協賛いただき、サンライズ産業(株)賞は、POP で主人公の悲壮感を表し、青森にゆかりのある太宰治の『人間失格』を紹介した理工学部4年の豊田駿人さんが受賞しました。

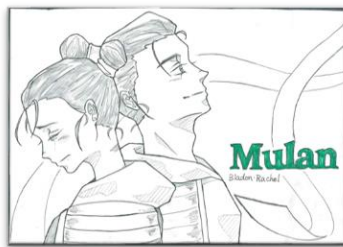
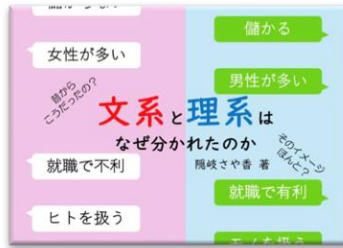
表彰式ではそれぞれの受賞者に表彰状と賞品の図書カードが手渡され、受賞者からこの図書を選んだ理由などについて熱い思いが語られました。



受賞 POP と該当図書は引き続き2階企画展示コーナーに展示しておりますので、気になる本がありましたら、ぜひご覧になってください。



たくさんのご応募・ご投票ありがとうございました！



図書館本館 2 階では引き続き、素敵な POP を飾っていますのでぜひ図書館にご来館ください!!

# 本との 出会いを 楽しむ

## 第 33 回

動物行動学者の本棚

### 「動物をとおしてヒト を見る」

曾我部 篤

弘前大学農学生命科学部准教授。専門は行動生態学・進化生態学で、魚類における一夫一妻の進化などの研究をおこなっている。



1冊の本との偶然の出会いがその人の生き方や価値観を決定づけることがあるとするならば、私にとってのそれは予備校生時代に電車待ちの書店でたまたま手にした『ソロモンの指環－動物行動学入門－』かもしれませぬ。

この本は、動物行動学者として最初（にして最後）のノーベル医学・生理学賞授賞者となったコンラート・ローレンツによるエッセイ集です。ローレンツの名を知らない人でも、彼が発見した生まれただけのヒヨコが初めて目にした動くモノを親だと思い込む〈刷り込み〉という現象を聞いたことがある人は多いのではないのでしょうか。本の中でローレンツは、公私にわたって様々な動物を飼育してきた経験と動物行動学者としての確かな目で、ときにユーモアを交えながら動物行動の不思議を解き明かしていきます。自然な行動をさせるため、動物を檻に閉じ込めることを由としなかった彼は、自宅でもワタリガラスやマングースなどの動物を放し飼いにしており、危険な動物から愛娘を守るために娘の方を檻に入れていたという、今の時代なら児童相談所にすぐ通報されてしまいそうなエピソードも紹介されています。

第12章「モラルと武器」で語られる内容は、文字どおり人生を変えるほどの衝撃を当時の私に与えました。この章でローレンツは、闘争する2匹のオオカミの一方が服従の姿勢をとれば、勝者による更なる攻撃は起きないという観察をとおして、大きな牙のような強力な武器を進化させた動物では、その使用を抑制する仕組みもまた同時に進化させたという洞察

を得ます。そしてこう述べます。「自分の体とは無関係に発達した武器をもつ動物が、たった一ついる。したがってこの動物が生まれつきもっている種特有の行動様式はこの武器の使いかたをまるで知らない。武器相応に強力な抑制は用意されていないのだ。この動物は人間である。」と。この本の原著初版が発行されたのは1949年、さまざまな近代兵器が投入された世界大戦を経て、人類を一瞬で滅ぼす兵器の開発を各国が競っていた時代です。そしてそれは今も変わりません。動物行動の研究が、単なる自然誌的・博物学的価値を超えて、動物としてのヒトの本質を理解する助けとなることを学び、動物行動学の道に進むきっかけをこの本が与えてくれたと感じています。

「誰もが見ていながら、誰も気づかなかったことに気づく、研究とはそういうものだ。」

この本との出会いから30年、動物行動学者の端くれとなった私は、ローレンツのこの言葉を胸に、今も研究を続けている。

（そがべ あつし）

「ソロモンの指環：  
動物行動学入門」

コンラート・ローレンツ著：

日高敏隆訳

和図書(第1書庫

2F~5F)

481.78

L88

## “医学部分館に生まれた新スペース”の巻

## トショカンの舞台裏

2024年1月15日、以前からビデオテープなど旧式化したメディアに占有されデッドスペースとなっていた医学部分館1F視聴覚資料コーナーを整理するとともに、PC用デスクが設置され床面積の割には座席数が少なかった1F閲覧席のデスクと椅子を更新し、本館と同様のラーニングcommonsを設置しました。



## ……………会話や議論ができるミーティングルーム……………

まず、旧視聴覚コーナーのエリアに防音効果の高い密閉型のパーティションを設置、中にスタッキングデスクとチェアを配置し会話や議論ができるミーティングルームとしました。講義室で使用されなくなったスクロール式スクリーンを流用し液晶プロジェクターを導入することでプレゼンテーションの場としての機能を強化しております。

## ……………移動・組み合わせ自由なデスクとチェア……………

次に1Fカウンター前の閲覧席をPCデスクからミーティングルームと同じデスクとチェアに置き換え、利用者の要望に合わせて移動や組み合わせが自由にできるようにしました。デスクとチェアを共通化したことで什器の使用効率を高めることにも成功しています。



ミーティングルームについては規則やマナーに反しない限り用途は限定しません。授業、演習、会議、講演、サークル・部活動などのほか、予約が無

い時間帯は閲覧席として開放しています。ミーティングルームの利用にあたっては、利用希望日の前日までに図書館の電子サービス「My Library」の施設予約サービスからオンラインでお申し込みいただくか、医学部分館へ直接お申込みください。

またラーニングcommonsスペースでは個人学習のほか、テーブルの組み合わせを変えて小グループでの勉強会や公開講演会などにも利用できます（スペースを占有する場合は事前にご相談ください）。また、試験前などの繁忙期には予備のデスクと椅子を投入配置し座席数を確保します。



## ……………マナーを守ってご利用ください……………

なお、ミーティングルーム及びラーニングcommonsスペースにおいても、図書館内の飲食のルールが適用されます（密閉可能な蓋付の容器に入った飲料以外の飲食は禁止です）。快適にご利用いただけるよう、ご理解とご協力をお願いします。



いかりのにかさまた青さ

四月の気層のひかりの底を

唾<sup>つばき</sup>しはぎしりゆききする

おれはひとりの修羅なのだ

詩集「春と修羅」

## 本を持って出かけよう

..... 第5回 .....

宮沢賢治と花巻市

『春と修羅』 918.6||Ki42||90

『注文の多い料理店』 918.6||Ki42||91

昭和44年 日本近代文学館発行

本館第1書庫2階所蔵



久しぶりに岩手県花巻市に行ってきました。花巻市と言えば、まず宮沢賢治の生まれ故郷というのが頭に浮かびます。

37歳の若さでこの世を去った宮沢賢治は、童話作家、詩人、農業指導者、教育者といった、いくつもの貌を持っています。また、鉱物、天文、動物や植物にも深い興味を持っていました。今では童話作家として誰もが知る存在ですが、生前に出版された本は、童話集『注文の多い料理店』、詩集『春と修羅』（賢治は詩集ではなく心象スケッチと呼称）の2冊のみ。残された作品は死後、友人らの尽力により編集出版され、世に知られるようになりました。花巻市には、賢治ゆかりの場所、関連施設、文学碑などが多くあり、その多面性や物語世界に触れることができます。（写真は宮沢賢治童話村）

今回ご紹介するのは、生前出版された2冊の図書の復刻版です。秋の夜長、当時の読者になった気持ちで賢治作品を読み返してみるのも、また一興かと。



# 葉と嘘の暗号 最終回

前回までのあらすじ

大学の図書館カウンターでアルバイト中、  
花の絵が描かれた葉と暗号のようなメモを見つけた二人は……

「ほら、これだろ？」

画面には、メモに書かれていたものと同じ長いタイトルが、一件だけ表示されていた。

「サイニー……リサーチ？」

「ああ。日本国内で発表された論文を調べるなら、このデータベースが一番おススメかな。この図書館にどんな雑誌があるかどうかはOPACを調べればわかるけど、どの雑誌にどんな記事、どんな論文が載っているかはOPACじゃわからないから、そういうときは論文用のデータベースを使うんだ」

「で、この論文はどこにあるんですか？この図書館にあるんですか？」

「焦るなつて。これが論文タイトルで、その下が著者名、雑誌名、数字は巻号とページ数と出版年」

先輩が指さした画面上の数字に見覚えがあり、手元のメモと見比べる。同じだ。暗号のようだった数字の並び

が、急に意味を持ったみたいに感じる。

「ほら、ここに弘大蔵書検索へのリンクがあるから、ここからOPACを開いて、雑誌のタイトルと、所蔵巻号と、配架場所を確認して……」

「第二書庫つすね！行ってきます！」

「あ、第二書庫は雑誌タイトルのアルファベット順に並んでるから、探すときは気を付けないと……」

先輩の声を背後に聞きながら、カウンターを飛び出すように走り出……そうとして、早歩きに切り替えた。

アルファベット順、アルファベット順。大丈夫。前にも探したことがある。ええと、まずは雑誌タイトルを頭の中

でローマ字表記にして……

\*\*\*

「葉しか無かったんですけど!？」

「おつかれ〜」

憤懣やるかたない思いでカウンタ

ーに戻ると、先輩は四枚目の葉を受け

取って、デスクの上、他の三枚の隣に並べた。

決して走らず急いで歩いてそして周囲に気を配りながら第二書庫の階段を上り目当ての雑誌のその論文のページまでたどり着いたが、挟まっていたのは葉だけで、他には何も無かつた。

「なんなんですか？これで終わりってことですか？」

この葉と暗号は、いったい何だったんだらう。

「これで終わりってことだよ」

四枚目の葉に描かれていたのは、紫がかかったピンクの花だった。花びらの付け根の部分だけが少し白っぽい。

「オシロイバナ、ツバキ、カミツレ、レンゲ」

先輩が、葉を指さしながら花の名前を言う。そんな名前の花だったのか。知らなかった。というか、なんで先輩

はわかるんだらう。

「オ、ツ、カ、レ！」

ニヤニヤと笑う先輩の顔を見て、急にすべてが腑に落ちた。

「これ、先輩が仕組んだんですか!？」

「うん。マニュアル読んで覚えるより、ゲーム感覚で実際にやってみての方が覚えやすいかなつて」

「そ、そうすけど……」

確かに、ちよつと楽しかったのは否定できない。それに、新聞記事の探し方や、論文の探し方も、次からはきつと自分一人でもできるから、その点は少しか感謝したい。

けれどこのまま終わるのは少し……癪だ。

「じゃあ次は私が問題を作りますから、先輩が探してくださいね？」



# Library's Half Year

2024.6~2024.11



6月	6/12	太宰ニ展示 (~7/4)
	6/24	R6 年度第 1 回 図書館運営委員会 図書選定委員会 新聞記事 DB 同時アクセス数拡大 (~7/21)
7月	7/17	電子ジャーナルデータベースの利用に関するアンケート調査(~7/31)
	8/5	POP コンテスト応募作品展示・投票開始 (~10/31)
8月	8/6	R6 年度第 2 回 図書館運営委員会
	8/8	オープンキャンパス (ミニ展示)
9月	8/9	市民 Day (ミニ展示)
	9/5	貴重資料保管室燻蒸
10月	10/4	R6 年度第 3 回 図書館運営委員会
	10/16	学内向け古本市 (~10/18)
	10/18	弘前大学総合文化祭古本市 (~10/20)
	11/1	R6 年度第 4 回 図書館運営委員会
11月	11/6	R6 年度読書週間連動企画 短歌づくりワークショップ
	11/11	利用者アンケート実施 (~11/24)
	11/20	POP コンテスト表彰式
	11/27	新聞記事 DB 同時アクセス数拡大
	11/29	豊泉第 60 号 Web 公開

今年度の POP コンテスト応募作品の展示は 8 月 5 日から始まりました。展示とともに投票もスタートし、8 月のオープンキャンパスや市民 Day では、たくさんの方々に投票いただきました。



また、オープンキャンパス、市民 Day にあわせてカウンター前では、弘前大学の教員著作物など弘前大学関連資料を展示するミニ展示も行いました。



10 月 18 日から 3 日間開催された総合文化祭では、図書館恒例の古本市を開催しました。古本市とは、不用となった図書を皆さんに再利用していただくため無料で提供するというものです。また、今年度も総合文化祭での開催に先立ち、学内向けの古本市も開催し、多くの方に利用いただきました。



11 月には、令和 6 年度読書週間連動企画として、短歌づくりワークショップを行いました。最初に、短歌についての説明を人文社会科学部の片岡先生と教育学部の帆刈先生から受けたあと、身近なテーマを題材とし、参加した学生・教職員の皆さんが実際に短歌を作ってみました。完成した短歌は、グローバルスクエアにて展示中ですので、ぜひご覧ください。



11 月 11 日から 24 日までの期間で利用者アンケートを実施しました。館内設備やサービスに関する利用状況や満足度、要望等を把握し、今後の図書館運営及びサービス改善の参考とするために毎年行っています。



# 寄贈図書紹介

本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書資料をご紹介します。(令和6年4月～令和6年9月受贈分)

寄贈者	書名	著者・編者	出版社	冊数	所蔵先
五十嵐勝明(鵬)	病める人には安らぎを健やかなる人には幸せを:未来へつなぐ医療・文化・故郷の記憶	五十嵐勝明著	径書房	1	分館
今泉忠淳(医)	弘南鉄道大鰐線50景:写真集	今泉忠淳著	北方新社	2	本館1/分館1
王孫瀧之(人)	「日本の伝統文化」を問い直す	重田みち編集	臨川書店	1	本館
上條信彦(人)	国史跡山王御遺跡の研究 (3:土器編,4:土器編2,5:土器編3)	関根達人編	弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター	3	本館
上條信彦(人)	国史跡山王御遺跡の研究(1:漆器編)	片岡太郎,上條信彦,関根達人著	弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター	1	本館
佐々木時雄(鵬)	婚外子を生きる	佐々木時雄著	文芸社	1	分館
中根明夫(名) 浅野クリスナ(医)	Staphylococcus aureus:Interplay between Bacteria and Hosts	Akio Nakane, Krisana Asano, editors	Springer	1	分館
長谷可亜希子(人)	デジタル・エコシステムをめぐる法的視座:独占禁止法・競争政策を中心に	土田和博編著	日本評論社	1	本館
長谷可亜希子(人)	リーランスの働き方と法:実態と問題解決の方向性	鎌田耕一,長谷川暎編	日本法令	1	本館
弘前大学出版会	コオリ先生のことは探求旅行 = Professor Kohri travels a quest for words	郡千寿子,多田恵実,バーマン・シャリー・ジョイ著	弘前大学出版会	3	本館2/分館1
弘前大学出版会	データサイエンス基礎	紅林亘[ほか]著;弘前大学数理・データサイエンス教育センター編	弘前大学出版会	1	本館
弘前大学出版会	学びの扉をひらく(弘前大学レクチャーコレクション/弘前大学出版会編:2)	弘前大学出版会編	弘前大学出版会	3	本館2/分館1
弘前大学出版会	邁向後地方創生:大学與社區協作的未来	平井太郎編著,北原政司[ほか]著;葉音嘉[ほか]翻譯	国立屏東大學	3	本館2/分館1
松木明知(名)	華岡青洲の「虚構」と「史実」	松木明知著	克誠堂出版	1	分館
保田宗良(名)	2023年度弘前大学人文社会科学部・教育学部消費者教育推進事業報告書:中高大連携による消費者教育推進事業の展開	消費者教育推進事業報告書編集委員会編	消費者教育推進事業報告書編集委員会	1	本館
保田宗良(名)	マーケティングゼミナール研究成果(2023年度)	弘前大学人文社会科学部企業戦略コースマーケティングゼミナール4年生[編]	弘前大学人文社会科学部企業戦略コースマーケティングゼミナール4年生	1	本館

※敬称略。寄贈者名の50音順。カッコ内は寄贈者所属。

(鵬): 鵬桜会 (医): 医学部 (人): 人文社会科学部 (名): 名誉教授



11月6日に開催した短歌づくりワークショップの様子は弘前大学ホームページにも掲載されています。

<https://www.hirosaki-u.ac.jp/topics/98807/>

ショート動画はこちら↓

<https://youtu.be/NwvzpNl-jPQ> (弘大ニュース#6)



## ◆編集後記

第10回 POP コンテストにご応募いただいた作品は本館にて展示中です。ぜひ図書館で素敵な POP と読書をお楽しみください。(Tsushima)

表紙の写真は11月19日に撮影した図書館外観です。紅葉に雪が積もっている様子がとても綺麗でした。左側に映っているオープンテラス部分、夏場にパラソルを立てている場所ですが、かつてはここが図書館の入り口だったと思うと感慨深いです。(Maruyama)

本との出会いを楽しむ編集を担当しました。紹介された図書「ソロモンの指環」の原書が医学部分館の「ノーベル生理学・医学賞関連コレクション」として所蔵されています。歴代受賞者の関連する図書や別刷を図書館内限定ですが閲覧することができます。是非、利用してみてください。(Sasaki)

## 弘前大学附属図書館報「豊泉」 第60号

発行日：令和6年11月29日

発行：弘前大学附属図書館

編集：弘前大学附属図書館広報委員会

〒036-8560

青森県弘前市文京町1

TEL 0172-39-3163

FAX 0172-39-3171

MAIL libpress@hirosaki-u.ac.jp

## ◆◆◆◆◆図書館員ちよこっとコラム◆◆◆◆◆

### 『蔵書を減らさず蔵書を減らす』

図書館の書架に所狭しと並べられている本。さらに新着図書コーナーには新しい本が続々と届いている光景を見て、こういう疑問を持ったことがある人はいるでしょうか？

-図書館の本、いつかは溢れてしまうんじゃないだろうか？-

実際には溢れます。現状溢れています。年々新しい本が購入や寄付されて入ってくるため、これらの本を入れるスペースをどうやって確保するかが図書館として頭の痛い問題となっています。

この問題を解決するために医学部分館では1)電子版資料の導入2)他の図書館と連携した相互利用サービスの活用、3)オープンアクセス(OA)化された資料の利用を推進しています。現在医学部分館で重点的に取り組んでいるのは1)と3)です。医学部分館の雑誌書庫には既にOA化され利用者が少なくなった印刷体の雑誌があります。

これらの資料のリストを作成し、PubMed CentralやJ-STAGE、国立国会図書館電子化資料送信サービス等無料で公開されている資料リストとのマッチングを行い、重複している雑誌を整理する作業に取り組んでおります。2022年度には洋雑誌を、2024-2025年度には和雑誌を整理する予定です。その先図書資料も整理したいと考えています。

この方法の問題は、実際に利用できる資料数は減らないものの、統計上の資料数が減少し、図書館の規模が縮小しているように見えてしまうことです。OA化が進行しさらに整理可能な資料が増えるとその傾向は顕著になっていくと思われませんが、医学部分館では「蔵書を減らさず蔵書を減らす」努力を続けていく予定です。今後ともご理解とご協力をお願いします。

(ふじい まさつぐ)

## 論文投稿時の掲載料(APC)支援 2024.1~

弘前大学では2024年1月より、Wiley社及びOxford社との契約において、電子ジャーナル購読料とAPCを包括した転換契約(Read&Publish契約)を導入しています。

これによるオープンアクセス出版支援の詳細については、下記の学内限定ページをご覧ください。

### ◆Wiley社

[https://ul.hirosaki-u.ac.jp/support/teacher/rp\\_wiley/](https://ul.hirosaki-u.ac.jp/support/teacher/rp_wiley/) (※学内限定)

### ◆Oxford社

[https://ul.hirosaki-u.ac.jp/support/teacher/rp\\_oxford/](https://ul.hirosaki-u.ac.jp/support/teacher/rp_oxford/) (※学内限定)

